

## 施工管理基準に基づく様式一覧表

様式番号	品 名
( 出 来 形 管 理 )	
1	出来形管理表 (表紙)
2-1	出来形管理表・測定結果一覧表
2-2	測定結果一覧表
3	出来形管理表 (図表)
4	度数表
( 品 質 管 理 )	
5	品質管理表 (表紙)
6	調査結果総括表
7-1	現場密度測定試験 (置換法)
7-2	〃 (突砂法)
8	道路の平板載荷試験
9	ブルーフローリング試験
10-1	現場における土の乾燥単位体積重量測定用紙
10-2	下層路盤用クラッシャーランの粒径加積曲線図
10-3	上層路盤用粒調碎石の粒径加積曲線図
11-1	アスファルト合材の管理試験
11-2	基準密度測定表
11-3	配合設計決定表
12	アスファルトの抽出試験 (ソックスレー法)
13	密度及び厚さの測定表
14	まだ固まらないコンクリートの洗い分析試験
(品 質 管 理 デ ー タ シ ー ト )	
15-1	$\bar{x}$ -R管理データシート (1)
15-2	〃 (1) の2
15-3	$\bar{x}$ -R管理図 (1)
15-4	x-Rs-Rm管理データシート
15-5	〃 の2
15-6	x-Rs-Rm管理図
16-1 ~ 8 参考1から参考4	継手チェックシート

様式 1

建設工事名

---

工出来形管理表

---

---

種目

受注者名

---





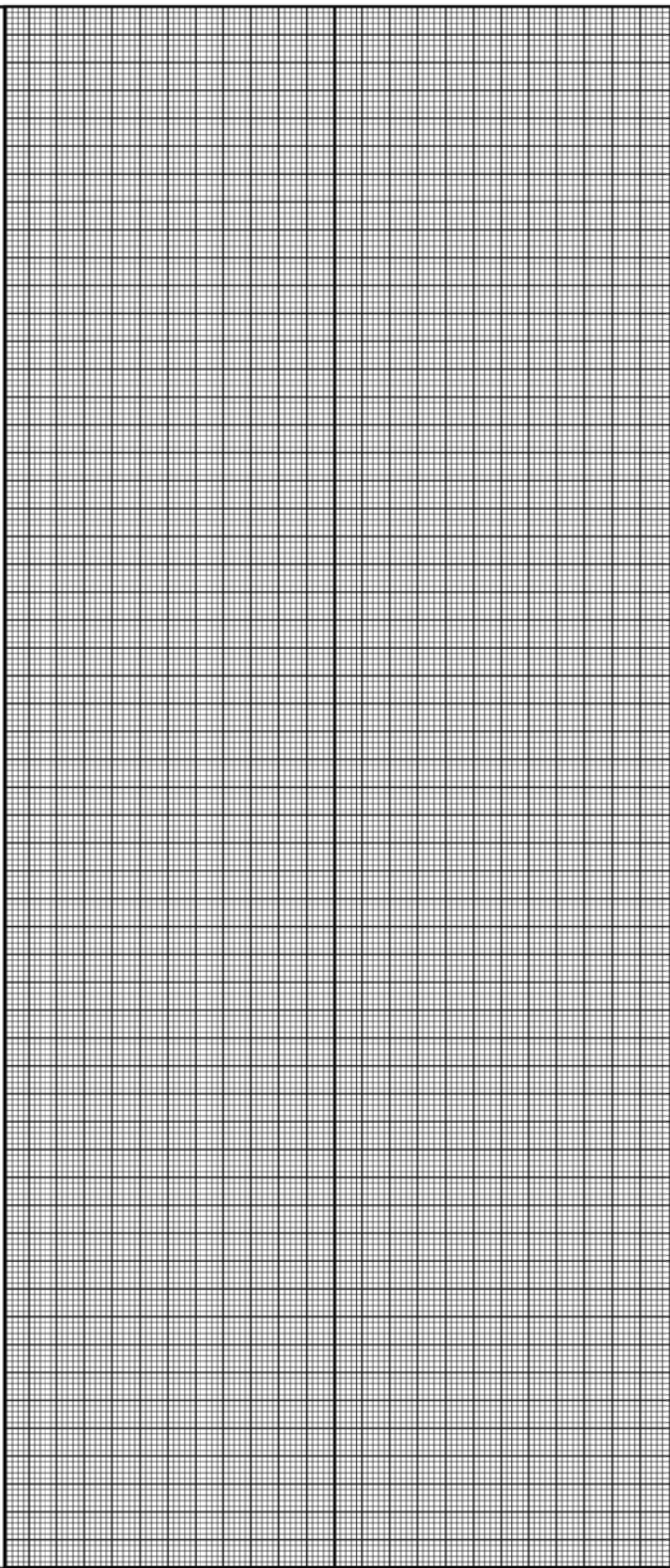
建設工事名

工出来形管理図表

受注者名

測定者

⑤

測点番号	月 日	設計値との差(㎜)	記事
			



様式 5

建設工事名

工 品 質 管 理 表

種 目

受注者名

様式 6

## 調査結果総括表

調査名

調査場所

調査No.			
試験名			
採取深度cm			
統一分類記号			
名称			
粒 度 分 析	礫分%		
	砂分%		
	細粒分%		
	60%径mm		
	30%径mm		
	10%径		
	フル イ 通 過 率 %	4.75mm	
		2.36mm	
		0.425mm	
		0.075mm	
均等係数 Cu			
曲率係数 Cc			
物 理 試 験	含水比%		
	液性限界 LL%		
	塑性限界 PL%		
	塑性指数 PI		
変 状 土 C B R	突固め 回数 67回	1	
		2	
		平均	
	CBR%		
修 正 C B R 試 験	最適含水比%		
	最大乾燥密度g/cm <sup>3</sup>		
	最大乾燥密度の95%		
	突固め 回数	17回	
		42回	
		92回	
修正CBR%			



## 現場における土の置換法による単位体積重量の測定

調査名、目的		試験日程		年	月	日	
測定箇所および測点番号		試験者					
土の最大粒径		mm	測定器番号				
測定器の体積		cm <sup>3</sup>	測定器の重量		g		
<b>I 試験用砂の単位体積重量の検定</b>							
測定番号	1	2	3	4	5	試験用砂の平均単位体積重量 r st  = g/cm <sup>3</sup>	
ジャーとピクノメータトップに砂を満たした重量Wjs	g						
測定器全体の重量Wj	g						
満たした砂の重量 (Wjs-Wj)	g						
ジャーとピクノメータトップとの体積Vj	cm <sup>3</sup>						
試験用砂の単位体積重量 r st	g/cm <sup>3</sup>						
<b>II ロト (ベースプレートを含む) を満たすに要する砂の重量検定</b>							
測定番号	1	2	3	4	5	ロトを満たすに要する砂の平均重量 Wjf = g	
ジャーとピクノメータトップに砂を満たした重量Wjs	g						
ロトを満たした砂を除きジャーに残った砂の重量Wj2	g						
ロトを満たした砂の重量 (Wj3-Wj2) = Wjf	g						
<b>III 試験孔からとり出した土の湿潤重量、含水比および乾燥重量の測定</b>							
試験孔の番号	湿潤土および乾燥土重量の測定		含水比の測定				
~ 1	容器 (バケツ) の番号		試料箱No.	No.	No.		
	(湿土+バケツ) の重量		g	WW	DW	WW	DW
	容器 (バケツ) の重量		g	DW	TW	DW	TW
	湿潤土の重量WwA		g	Ww	Ws	Ww	Ws
	乾燥土の重量Wv		g	w = %		w = %	
		平均含水比		w = %			
~ 2	容器 (バケツ) の番号		試料箱No.	No.	No.		
	(湿土+バケツ) の重量		g	WW	DW	WW	DW
	容器 (バケツ) の重量		g	DW	TW	DW	TW
	湿潤土の重量WwA		g	Ww	Ws	Ww	Ws
	乾燥土の重量Wv		g	w = %		w = %	
		平均含水比		w = %			
~ 3	容器 (バケツ) の番号		試料箱No.	No.	No.		
	(湿土+バケツ) の重量		g	WW	DW	WW	DW
	容器 (バケツ) の重量		g	DW	TW	DW	TW
	湿潤土の重量WwA		g	Ww	Ws	Ww	Ws
	乾燥土の重量Wv		g	w = %		w = %	
		平均含水比		w = %			
試験孔番号	~ 1	~ 2	~ 3	(予備欄)			
ジャーとピクノメータトップに砂を満たした重量Wj <sub>3</sub>	g						
ジャーに残った砂の重量Wj <sub>2</sub>	g						
試験孔およびロトに入った砂の重量 (Wj <sub>2</sub> -Wj <sub>1</sub> )	g						
試験孔に入った砂の重量 (Wj <sub>2</sub> -Wj <sub>3</sub> ) - Wjf	g						
試験孔の体積	V cm <sup>3</sup>						
試験孔番号	~ 1	~ 2	~ 3	平均した砂の単位体積重量			
土の湿潤単位体積重量 r t	g/cm <sup>3</sup>			r t = g/cm <sup>3</sup>			
土の乾燥単位体積重量 r d	g/cm <sup>3</sup>			r d = g/cm <sup>3</sup>			
(備考)							
I 砂の単位体積重量: r st = $\frac{(Wj_3 - Wj_1)}{V}$		III 乾燥土重量: Wv = $\frac{WwA \times 100}{100 + w}$					
IV 試験孔の体積: V = $\frac{(Wj_2 - Wj_3) - Wjf}{r st}$		V 土の湿潤単位体積重量: r t = $\frac{WwA}{V}$					
		土の乾燥単位体積重量: r d = $\frac{Wv}{V}$					

		現場密度測定試験 (突砂法)		報告用紙	
建設工事名		試験日		年	月 日
建設工事場所		天 候			
工 種		試験者			
使用材料名					
① 砂の単位体積重量		g / cm <sup>3</sup>	測 定 番 号		
掘り取った穴の容積	② 試験前の砂の重量	( g )			
	③ 試験後の砂の重量	( g )			
	④ ベースプレスト中の砂の重量	( g )			
	⑤ 穴につめた砂の重量 (②-③-④)	( g )			
	⑥ 掘り取った穴の容積 (⑤/①)	( cm <sup>3</sup> )			
	湿潤密度	⑦ (湿潤試料+容器) 重量	( g )		
⑧ 容 器 の 重 量		( g )			
⑨ 湿潤試料重量 (⑦-⑧)		( g )			
⑩ 湿潤密度 (⑨/⑥)		( g/cm <sup>3</sup> )			
含水比及び乾燥密度	⑪ (乾燥試料+容器) 重量	( g )			
	⑫ 容器の重量	( g )			
	⑬ 乾燥試料重量 (⑪-⑫)	( g )			
	⑭ 全体含水量 (⑨-⑬)	( g )			
	⑮ 全体含水比 (⑭/⑬×100)	( % )			
	⑯ 乾 燥 密 度 r d	( g/cm <sup>3</sup> )			
⑰ 最大乾燥密度 r d	( g/cm <sup>3</sup> )				
⑱ 締固め度 (⑯/⑰×100)	( % )				
⑲ 締固め度平均	( % )				
備 考					

道路の平板載荷試験 (JIS A 1215)

建設工事名 \_\_\_\_\_

工 種 名 \_\_\_\_\_

測定番号 \_\_\_\_\_

測定箇所 \_\_\_\_\_

試験期日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

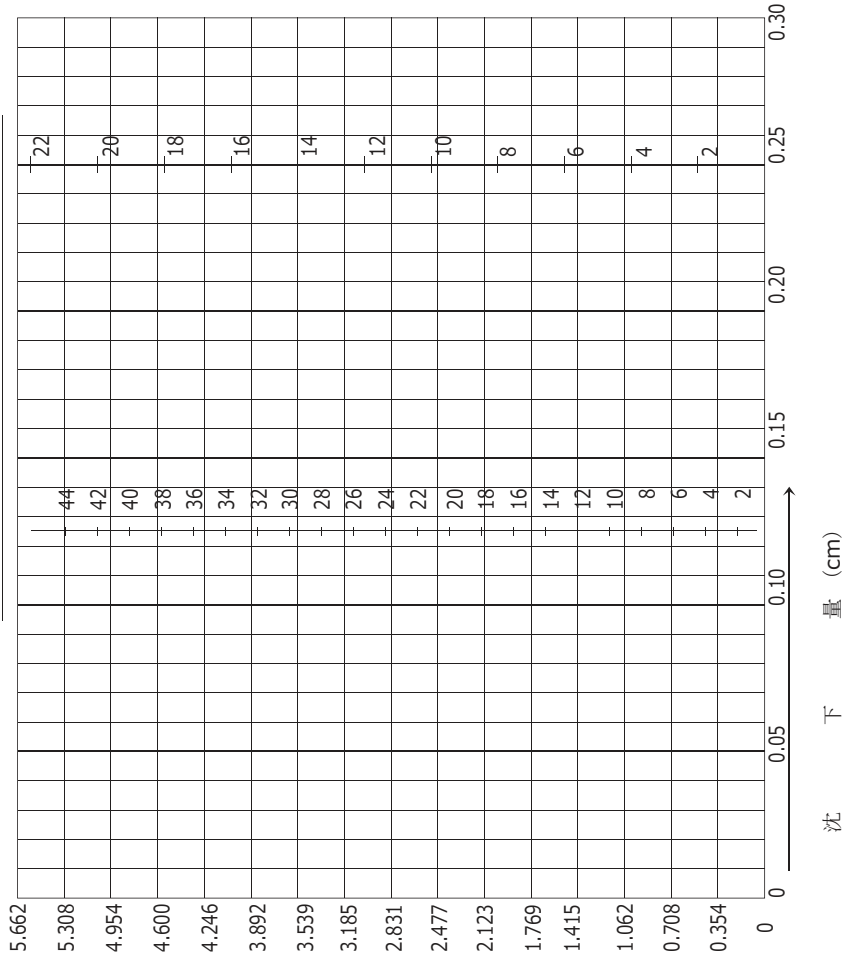
路面の状態 \_\_\_\_\_

受注者名 \_\_\_\_\_

天候 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_

印 \_\_\_\_\_



荷 重 kg/	沈下量ダイヤルゲージの読み 1/100mm			平均値
	左	中	右	
全荷重				
0.250	0.354			
0.500	0.708			
0.750	1.062			
1.000	1.415			
1.250	1.769			
1.500	2.123			
1.750	2.477			
2.000	2.831			
2.250	3.185			
2.500	3.539			
2.750	3.892			
3.000	4.246			

$$K_{30} = \frac{\text{沈下量 (cm)}}{\text{荷重 (kg/cm}^2\text{)}} = \frac{K_{75}}{2.2} = \frac{K_{30}}{2.2} \text{ kg/cm}^2$$

プルーフローリング試験

建設工事名 \_\_\_\_\_

受注者名 \_\_\_\_\_

工 種 名 \_\_\_\_\_

測 定 者 \_\_\_\_\_

項 目	事 項			備 考
試 験 条 件	天 候		測定面の含水状況	
試 験 区 間	No.		~No.	
載 荷 車	型 式		接 地 圧	
載 荷 状 況	予備載荷回数		回 本載荷速度	km/h

試 験 結 果	
視 察 展 開 図	<div style="text-align: center;"> </div>
視 察 記 事	
異 状 箇 所 の 処 置	

		現場における土の乾燥単位体積重量測定用紙			記録用紙	
測定者		測定日		年	月	日
調査名・目的		使用材料名		産		
施工場所						
測定場所	工種区分					
	測定番号					
	転圧作業日					
砂体の積単重量	① キャリブレーション容器の重量 (g)					
	② キャリブレーション容器に砂を満たしたときの重量 (g)					
	③ 砂の単位体積重量 $\frac{②-①}{\text{キャリブレーション容器}}$ (g/cm <sup>3</sup> )					
掘り取った穴の容積	④ 試験前 (砂+キャリブレーション容器) 重量 (g)					
	⑤ 試験後 ( " + " ) " (g)					
	⑥ ベースプレート中の砂の重量 (g)					
	⑦ 穴につめた砂の重量 (④-⑤-⑥) (g)					
	⑧ 掘り取った穴の容積 $\frac{⑦}{③}$ (cm <sup>3</sup> )					
湿潤密度	⑨ (湿潤試料+容器) 重量 (g)					
	⑩ 容器の重量 (g)					
	⑪ 湿潤試料の重量 ⑨-⑩ (g)					
	⑫ 湿潤密度 $\frac{⑪}{⑧}$ $\gamma_t$ (g/cm <sup>3</sup> )					
含水比及乾燥密度	⑬ (乾燥試料+容器) 重量 (g)					
	⑭ 容器の重量 (g)					
	⑮ 乾燥試料重量 ⑬-⑭ (g)					
	⑯ 全体含水量 ⑮-⑪ (g)					
	⑰ 全体含水比 $\frac{⑯}{⑮} \times 100$ (%)					
	⑱ 乾燥密度 $\frac{⑮}{⑧}$ (g/cm <sup>3</sup> )					
	⑲ 最大乾燥密度 $\gamma_d$ (g/cm <sup>3</sup> )					
	⑳ 締固め度 $\frac{⑱}{⑲}$ (%)					
	平均値					

下層路盤用クラッシュチャーランの粒径加積曲線図		試験報告用紙			
試料番号	クラッシュチャーランの産地	試験年月日	年	月	日
調査名・目的	クラッシュチャーランの規格	作成者			
試料採取場所	ふるい分け試験番号データーシート No. _____	※印の粒径について、ふるい分け試験を行なう。			

JISA 1203	土の含水量試験	報告用紙	試験年月日	年	月	日
W.W. - D.W. × 100 = $\frac{W.w \times 100}{W.s}$ 含水比 (%) D.W. - T.W.						
WW測定日時 試料番号		含水比の測定		含水比		
月	日	時	No.	WW	DW	%
試料番号				DW	TW	
				WW	WS	

通過重量百分率 %

フルイ目の開き

フルイ目の呼び寸法 (mm)	通過重量百分率 (%)	粒度範囲
37.5		100
31.5		※ 95~100
26.5		
19.0		※ 55~85
13.2		
9.5		
4.75		15~45
2.36		※ 5~30
1.18		
0.425		0~18
0.075		※ 0~10









配 合 設 計 決 定 表

建設工事名 : \_\_\_\_\_

建設工事場所 : \_\_\_\_\_

合材種別 : \_\_\_\_\_

安	定	度	kg
フ	ロ	一	値
			1/100 <sub>cm</sub>
空	隙	率	%
飽	和	度	%
基 準	ア ス フ ァ ル ト 量		%
基 準	密 度		g/cm <sup>3</sup>
粒 度	26.5m/m		%
	19.0 "		%
	13.2 "		%
	4.75 "		%
	2.36 "		%
	0.6 "		%
	0.3 "		%
	0.15 "		%
	0.075 "		%

アスファルトの抽出試験 (ソックスレー法)		試験 報告 用 紙			
建設工事名	_____	試年月日	_____年	_____月	_____日
工事施工箇所	_____	測定者	_____		
混合物の種類	_____	ろ過装置の種類	_____		
受注者名	_____	溶剤の種類	_____		
試験測定番号		1	2	3	
① 容器の重量 (g)					
② (容器 + 試料) 重量 (g)					
③ 試料重量 (g)	②-①				
④ 円筒ろ紙の乾燥重量 (g)					
⑤ (抽出後の乾燥骨材 + 容器) 重量 (g)					
⑥ 容器重量 (g)					
⑦ 抽出後の骨材重量 (g)	⑤-⑥				
⑧ 抽出後円筒ろ紙の乾燥重量 (g)					
⑨ 円筒ろ紙に付着したフィルターの重量 (g)	⑧-④				
⑩ 全抽出骨材重量 (g)	⑦+⑨				
⑪ アスファルト重量 (g)	③-⑩				
⑫ アスファルト含有率 (%)	⑪/③×100				
⑬ 平均値	基準値				
抽出骨材のフルイ分け試験 (2.36mm及び0.075mmフルイ通過骨材重量百分率)					
⑭ 容器または0.075 mmフルイの重量 (g)					
⑮ 水洗い前 (骨材+容器または0.075mmフルイ) 重量 (g)	⑦+⑭				
⑯ 水洗い後 ( " ) 乾燥重量 (g)					
⑰ 0.075 mmフルイ通過骨材重量 (g)	⑮-⑯+⑨				
⑱ 0.075 mmフルイ通過重量百分率 (%)	⑰/⑮×100				
⑲ 平均値	基準値				
⑳ 2.36 mmフルイ残留骨材重量 (g)					
㉑ 2.36 mmフルイ通過骨材重量 (g)	⑩-⑳				
㉒ 2.36 mmフルイ通過骨材重量百分率 (%)	㉑/⑩×100				
㉓ 平均値	基準値				



JIS A 1112

まだ固まらないコンクリートの洗い分析試験

建設工事名 \_\_\_\_\_ 受注者名 \_\_\_\_\_

工 種 名 \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_

項目		測定番号		
試料の空中重量 (g)				
試料の水中重量 (g)				
試料の総体積 (g)				
砂の水中重量 (g)				
砂利の水中重量 (g)				
砂の比重 (g)				
砂利の比重 (g)				
試料含有量	セメント (g)			
	砂 (g)			
	砂 利 (g)			
	水 (g)			
単位量換算 (kg/m <sup>3</sup> )	セメント量			
	細骨材量			
	粗骨材量			
	単位水量			
	水セメント比 (%)			

[注] 砂：4.75mmフルイを通過し、0.15mmフルイに止まるもの

砂利：4.75mmフルイに止まるもの

$\bar{x}$ -R管理データシート(1)

名 称		建設工事名		期 間	自	
品質・特性		出張所名			至	
測定単位		日標準量		受注者		
規格	上限値	試大さ		現場代理人		
限界	下限値	料間隔		測定者		
設計基準値		作業機械名		測定者		

月 日	組の 番号	測 定 値					計 $\Sigma X$	平均値 $\bar{X}$	範囲 R	$\bar{x} \pm A_2 \cdot \bar{R} =$			
		$X_1$	$X_2$	$X_3$	$X_4$	$X_5$				$D_4 \cdot \bar{R} =$	$\bar{x} =$	$\bar{R} =$	
	1												
	2												
	3												
	4									平均 $\bar{x} =$	$\bar{R} =$		
	5									累計 $\bar{x} =$			
	小計									小計			
	6									$\bar{x} \pm A_2 \cdot \bar{R} =$			
	7									$D_4 \cdot \bar{R} =$			
	8												
	9									平均 $\bar{x} =$	$\bar{R} =$		
	10									累計 $\bar{x} =$			
	小計									小計			
	11									$\bar{x} \pm A_2 \cdot \bar{R} =$			
	12												
	13												
	14									$D_4 \cdot \bar{R} =$			
	15												
	16												
	17												
	18												
	19									平均 $\bar{x} =$	$\bar{R} =$		
	20									累計 $\bar{x} =$			
	小計									小計			
記事										n	$d_2$	$A_2$	$D_4$
										2	1.13	1.88	3.27
										3	1.69	1.02	2.57
										4	2.06	0.73	2.28
										5	2.33	0.58	2.11

- (注) 1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。  
 2. 管理限界線の引き直しは5-5-10-20-20方式による。  
 .....  
 .....  
 .....  
 .....
- (備考) ー 管理限界の計算のための予備データの区間  
 ...上記の管理限界を適用する区間を示す。
3. 21組~40組までは、別に新しいデータシートに記入する。以下20組ごとに同様とする。







x-Rs-Rm管理データシート

名 称		建設工事名				受注者名							
品質・特性		出張所名				測定者							
測定単位		日標準量				測定者							
規格限界	上限値	試料		大きさ		測定者							
	下限値	材料		間隔									
設計基準値		作業機械名				測定者							
月 日	試験番号	測定値				計 Σ	平均値 $\bar{x}$	移動範囲 Rs	測定値内の範囲 Rm	$\bar{x} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$			
		a	b	c	d					$D_4 \cdot \bar{R}_s =$			
	1								$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	2												
	3												
	4								平 均	$\bar{x} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	5								累 計				
	小計								小 計				
	6								$\bar{x} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$				
	7								$D_4 \cdot \bar{R}_s =$				
	8								$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	9								平 均	$\bar{x} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	10								累 計				
	11								小 計				
	12								平 均	$\bar{x} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	13								累 計				
	小計								小 計				
	14								$\bar{x} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$				
	15								$D_4 \cdot \bar{R}_s =$				
	16								$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	17								平 均	$\bar{x} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	18								累 計				
	19								小 計				
	20								平 均	$\bar{x} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	小計								累 計				
	小計								小 計				
記事									n	d <sub>2</sub>	D <sub>4</sub>	E <sub>2</sub>	
									2	1.13	3.27	2.66	
									3	1.69	2.57	1.77	
									4	2.06	2.28	1.46	
									5	2.33	2.11	1.29	

- (注) 1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。  
 2. 管理限界線の引き直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

—.....  
 —.....  
 —.....  
 —.....  
 —.....

(備考) — 管理限界の計算のための予備データの区間  
 …上記の管理限界を適用する区間を示す。

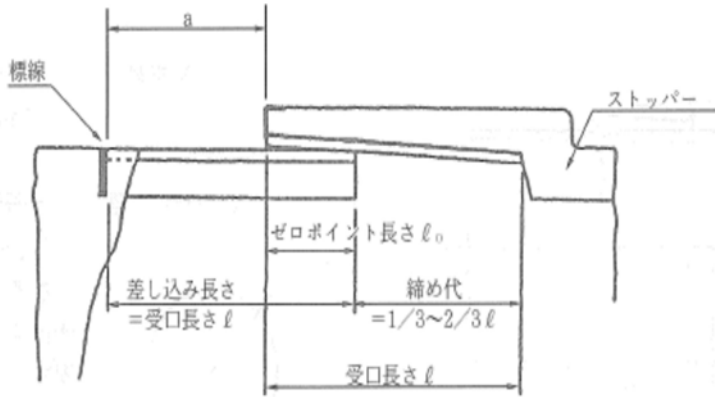
3. 以下、最近の20組（平均値  $\bar{x}$  を1箇とする）のデータを用い、次の10箇に対する管理限界とする。





## TS継手チェックシート

工 事 名		請 負 者	
管種・呼び径		図面No.	



a の規格値 単位 mm  
 Max (2/3ℓ - ℓ₀) =  
 Min = 0

ゼロポイント長さの確認  
 No. 1=  
 No. 2=  
 No. 3=  
 ℓ₀(平均値)=

略 図									
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--

継 手 No.									
面 取 り									
標 線									
清 掃									
接 着 剤 塗 布・拭取り									
挿入力保持時間 (秒)									
受口面一標線間隔 (a)									

- 備 考
- 1 測定基準 継手管理…5本に1ヶ所、写真管理・・・10本に1ヶ所
  - 2 ゼロポイントの確認 1ロット3個 (1ロット=500m)
  - 3 aの規格値 上記算式により算出
  - 4 受口面～標線間隔 (a) aの規格値のMinになるべく近づける。
  - 5 挿入力保持時間 夏期は60秒以上  
春・秋・冬は180秒以上とする。

施 工 日		点検者	
年 月 日	測定者		



## T形継手チェックシート

工名		請負者	
呼び径・管種	φ	図面No.	
施工日	年月日	測定者	点検者

(注) 呼び径300mm以下の場合は1,3,5,7の4箇所とする

管 No. および形状							
略 図	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

継 手 N o .							
清 掃							
滑 剤							
受 口 溝 の 確 認							

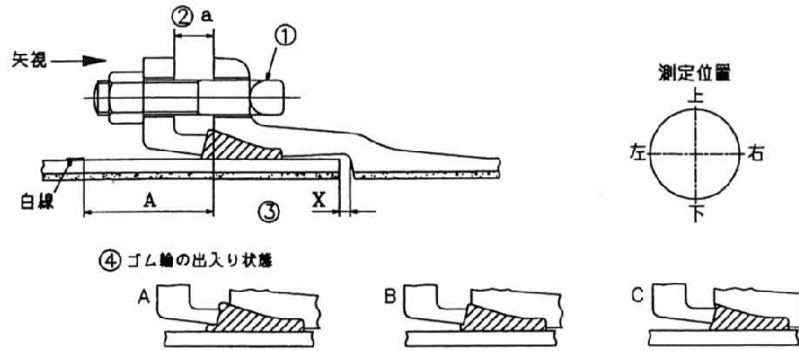
① 受口面ーゴム輪の間隔	1						
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
② 受口面ー白線の間隔	1						
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						

判 定

判定基準 (単位: mm)					
呼び径	②管理基準値	②規格値	呼び径	②管理基準値	②規格値
75	76.0~87.0	76.0~92.0	450	75.0~91.0	75.0~99.0
100	73.0~84.0	73.0~89.0	500	75.0~95.0	75.0~105.0
150	77.0~88.0	77.0~93.0	600	75.0~95.0	75.0~105.0
200	75.0~85.0	75.0~89.0	700	75.0~95.0	75.0~105.0
250	76.0~86.0	76.0~90.0	800	75.0~95.0	75.0~105.0
300	75.0~91.0	75.0~99.0	900	75.0~100.0	75.0~115.0
350	75.0~91.0	75.0~99.0	1000	75.0~100.0	75.0~115.0
400	75.0~91.0	75.0~99.0	1100	75.0~100.0	75.0~115.0

### K形継手チェックシート

工事名		請負者	
呼び径・管種	φ	図面 No.	
施工日	年月日	測定者	点検者



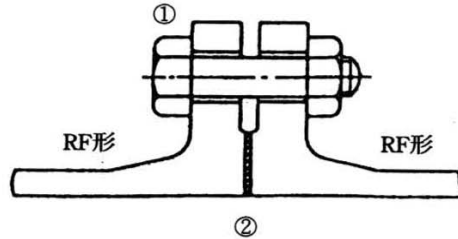
管 No. および形状							
略 図							
継 手 No.							
清 掃							
滑 剤							
①ボルト	数						
	トルク (N・m)						
②押輪 - 受口端面間隔(a)	上						
	右						
	下						
	左						
③受口端面 - 白線の間隔(A) または胴付間隔 (X)	上						
	右						
	下						
	左						
④ゴム輪の 出入り状態	上						
	右						
	下						
	左						
判 定							

**判定基準**

- ②押輪 - 受口端面の間隔(a) : 最大値 - 最小値 ≤ 5mm (同一円周上)
- ③受口端面 - 白線の間隔(A) : 呼び径 75~250mm A ≤ 95mm  
呼び径 300~600mm A ≤ 107mm
- または胴付間隔(X) : X ≤ 表2の値
- ④ゴム輪の出入り状態 : 同一円周上にA, C または A, B, C が同時に存在しないこと。

## 大平面座形フランジ継手チェックシート

工事名		請負者	
呼び径・管種	φ	図面 No.	
施工日	年月日	測定者	点検者



製品名 および形状								
製品 No.								
略 図								
継 手 No.								
清 掃								
①ボルト	数							
	トルク (N・m)							
②ガスケットの位置								
判 定								

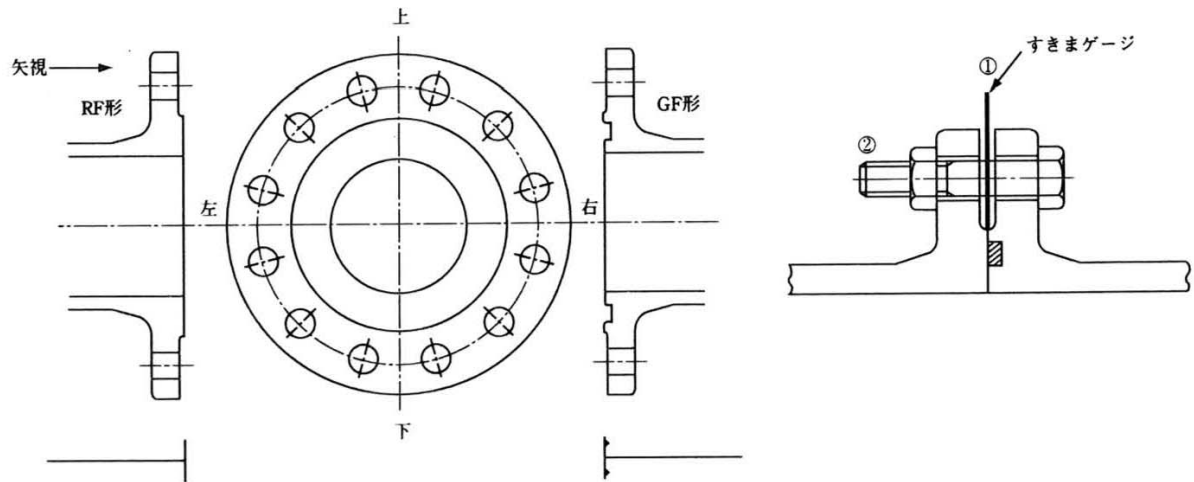
**判定基準** ①ボルトの締め付けトルク : 表3の標準締め付けトルクによる。  
 ②ガスケットの位置 : フランジ面が平行にかたよりなく接合されていることおよびガスケットのずれがないこと。



## 溝形フランジ継手チェックシート (メタルタッチの場合)

工事名		請負者	
呼び径・管種	φ	図面 No.	
施工日	年月日	測定者	点検者

呼び圧力 \_\_\_\_\_



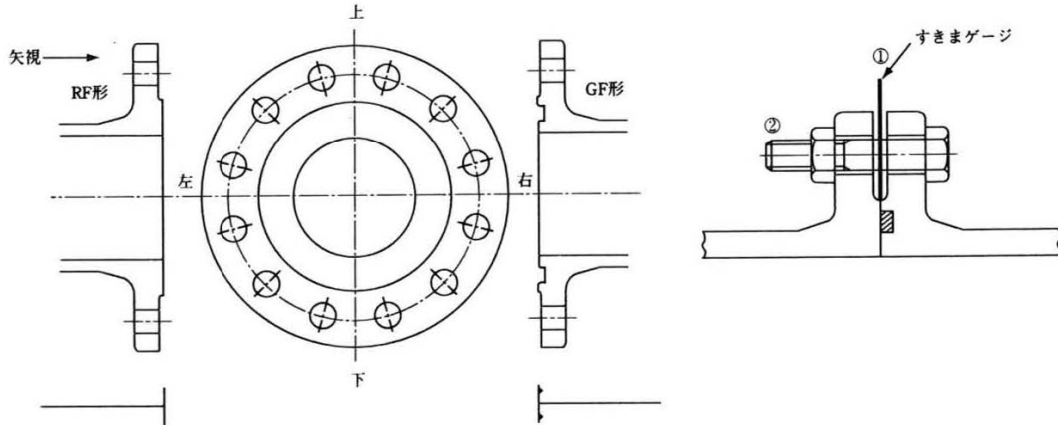
製品名 および形状								
製品 No.								
略 図								
継 手 No.								
清 掃								
接着剤使用の有無								
①すきまゲージ (1mm厚)に よるチェック	上							
	右							
	下							
	左							
②ボルト	数							
	トルク (N・m)							
判 定								

**判定基準** ①すきまゲージによるチェック : フランジ面間の1mm厚のすきまゲージが入らないこと。  
 ②ボルトの締め付けトルク : 60N・m以上

溝形フランジ継手チェックシート  
(メタルタッチでない場合)

工事名		請負者	
呼び径・管種	φ	図面 No.	
施工日	年月日	測定者	点検者

呼び圧力 \_\_\_\_\_



製品名 および形状																				
製品 No.																				
略 図																				
継 手 No.																				
清 掃																				
接着剤使用の有無																				
①すきまゲージ (上限用と下限用) によるチェック	上																			
	右																			
	下																			
	左																			
②ボルト	数																			
	ゆるみ チェック																			
判 定																				

**判定基準** ①すきまゲージによるチェック :表4に示した上限のすきまゲージが挿入できないので、下限のすきまゲージが挿入できること。  
②ボルトのゆるみチェック :容易にゆるまないこと。

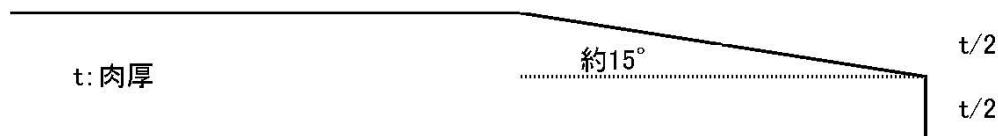


## 1 塩化ビニール管面取り代

(1)TS接合 糸面取り(2mm程度)

(2)RR接合

X:面取り寸法



呼び径 (mm)	RR接合面取り代 (Xmm)											
	VP				VM				VU			
	t	t/2	$\alpha^\circ$	X	t	t/2	$\alpha^\circ$	X	t	t/2	$\alpha^\circ$	X
50	4.1	2.1	14.4	8								
75	5.5	2.8	14.0	11					2.7	1.4	15.1	5
100	6.6	3.3	14.2	13					3.1	1.6	14.5	6
125	7.0	3.5	14.0	14					4.1	2.1	14.4	8
150	8.9	4.5	13.9	18					5.1	2.6	14.3	10
200	10.3	5.2	13.8	21					6.5	3.3	15.2	12
250	12.7	6.4	14.3	25					7.8	3.9	14.6	15
300	15.1	7.6	14.1	30					9.2	4.6	15.1	17
350					14.3	7.2	14.8	27	10.5	5.3	14.7	20
400					16.2	8.1	15.1	30	11.8	5.9	15.0	22
450					18.1	9.1	14.9	34	13.2	6.6	14.8	25
500					20.0	10.0	15.1	37	14.6	7.3	15.1	27
600									17.8	8.9	15.1	33

## 2 RR継手(VP)受口面—ゴム輪間隔標準値例(bmm)

呼び径 (mm)	K社・M社											
	標準形	離脱防止形	標準形	離脱防止形	標準形	離脱防止形	標準形	離脱防止形	標準形	離脱防止形	標準形	離脱防止形
13	~	~	~	~	~	~	~	~				
16	~	~	~	~	~	~	~	~				
20	~	~	~	~	~	~	~	~				
25	~	~	~	~	~	~	~	~				
28	~	~	~	~	~	~	~	~				
30	~	~	~	~	~	~	~	~				
35	~	~	~	~	~	~	~	~				
40	~	~	~	~	~	~	~	~				
50	17~27	~	~	~	~	~	~	~				
65	~	~	~	~	~	~	~	~				
75	19~29	25~35	~	~	~	~	~	~				
100	24~34	31~41	~	~	~	~	~	~				
125	19~39	29~49	~	~	~	~	~	~				
150	24~44	32~52	~	~	~	~	~	~				
200	33~53	46~66	~	~	~	~	~	~				
250	39~59	55~75	~	~	~	~	~	~				
300	47~67	67~87	~	~	~	~	~	~				
350	54~74	72~92	~	~	~	~	~	~				
400	49~79	72~102	~	~	~	~	~	~				
450	57~87	81~111	~	~	~	~	~	~				
500	61~91	85~115	~	~	~	~	~	~				
600	67~97	~	~	~	~	~	~	~				

注)管種により継手寸法及びゴム輪の形状等が異なるので、上記以外の標準値は各メーカーに照会すること。

### 3 塩化ビニール管用接着剤・滑剤の標準使用量例

#### (1) TS接合用接着剤

単位:g/1箇所

呼び径 (mm)	K社			M社	S社	V社		
	高粘度 速乾性	低粘度 速乾性	高粘度 遅乾性					
13	0.9	0.6			0.7			
16	1.2	0.8			1.0			
20	1.7	1.1			1.5			
25	2.4	1.6			2.0			
28	2.6	1.7						
30	3.2	2.1			2.5			
35	3.5	2.3						
40	5.0	3.3			3.5			
50	7.1	4.8		5.0	5.0			
65	9.9	6.6			6.5			
75	12.0	8.1		9.0	10.0	10.0		
100	20.0	13.0		13.0	15.0	15.0		
125	30.0	20.0		20.0	20.0	20.0		
150	45.0	30.0		30.0	30.0	30.0		
200	80.0		70.0	70.0	55.0	55.0		
250	130.0		105.0	105.0	90.0	90.0		
300	180.0		150.0	150.0	125.0	125.0		
350			205.0	205.0		175.0		
400			265.0	265.0		220.0		
450			330.0	330.0		275.0		
500			410.0	410.0		350.0		
600			595.0	595.0		525.0		

#### (2) RR接合用滑剤

単位:g/1箇所

呼び径 (mm)	K社	M社	S社	V社				
13								
16								
20								
25								
28								
30								
35								
40			4.0					
50			5.0					
65								
75			7.0					
100	10.0	10.0	10.0	10.0				
125	15.0	15.0	15.0	15.0				
150	20.0	20.0	20.0	20.0				
200	25.0	25.0	25.0	25.0				
250	35.0	35.0	35.0	30.0				
300	50.0	50.0	50.0	50.0				
350	65.0	65.0		65.0				
400	90.0	90.0		90.0				
450	115.0	115.0		115.0				
500	140.0	140.0		140.0				
600	190.0	190.0		190.0				

4 ダクタイル鉄管ボルト標準締め付けトルク(日本ダクタイル鉄管協会)

種別	呼び径(mm)	ボルトの呼び	標準締め付けトルク (N・m)
S II	75	M16	60
	100～450	M20	100
KF	300～600	M20	100
	700～800	M24	140
	900	M30	200
K	75	M16	60
	100～600	M20	100
	700～800	M24	140
	900～2600	M30	200
NS	500～600	M20	100
	700～800	M24	140
	900～1000	M30	200
大平面座形フランジ	75～200	M16	60
	250～300	M20	90
	350～400	M22	120
	450～600	M24	260
	750～1200 1350～1500	M30 M36	570 1200
溝形フランジ (メタルタッチの場合)	—	—	60以上

5 T型継手②値計算表 ②=80-P+I+管理基準or規格値(単位:mm)

呼び径	P寸法	I1寸法	管理基準値				規格値			
			施工管理基準P.136		②範囲		施工管理基準P.136		②範囲	
			最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小
75	84	80	11	0	87	76	16	0	92	76
100	87	80	11	0	84	73	16	0	89	73
150	88	85	11	0	88	77	16	0	93	77
200	105	100	10	0	85	75	14	0	89	75
250	114	110	10	0	86	76	14	0	90	76
300	115	110	16	0	91	75	24	0	99	75
350	130	125	16	0	91	75	24	0	99	75
400	130	125	16	0	91	75	24	0	99	75
450	130	125	16	0	91	75	24	0	99	75
500	135	130	20	0	95	75	30	0	105	75
600	140	135	20	0	95	75	30	0	105	75
700	155	150	20	0	95	75	30	0	105	75
800	160	155	20	0	95	75	30	0	105	75
900	175	170	25	0	100	75	40	0	115	75
1000	185	180	25	0	100	75	40	0	115	75
1100	200	195	25	0	100	75	40	0	115	75
1200	215	210	25	0	100	75	50	0	125	75
1350	235	230	25	0	100	75	50	0	125	75
1500	260	255	25	0	100	75	60	0	135	75
1600	275	270	25	0	100	75	70	0	145	75
1650	280	275	25	0	100	75	70	0	145	75
1800	305	300	25	0	100	75	80	0	155	75
2000	335	330	25	0	100	75	90	0	165	75